

【報告書タイトル】

What is the key to supporting Zambia～国際協力の在り方を考える～

【実践者】

氏名	杉浦 瑞穂	学校名	宮城県松島高等学校
担当教科等	外国語(英語) / LHR	対象学年	観光科 2年3組(30名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2025年7月～11月 (9時間)	

【実践概要】

1. 単元名: What is the key to supporting Zambia～国際協力の在り方を考える～	
2. 単元目標: ①ザンビアの国の現状や現地で活躍する協力隊員の話聞いて国際協力の在り方を考える。 ②様々なアクティビティを通しクラスメイトと考えをシェアすることで、自分のアンコンシャス・バイアスに気づき、他者を思いやる態度を育む。 関連する学習指導要領上の目標:外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
3. 単元の評価規準	①知識及び技能 ザンビアの現状や協力隊員の話正確に押さえ、それらをもとに議論を繰り広げることができる。
	②思考力、判断力、表現力等 役割ごとの立場を考慮しながら、多面的に課題について考え、自らの意見をしっかりと述べるができる。
	③主体的に学習に取り組む態度 グループアクティビティやロールプレイに積極的に参加し、他者の意見や考えに寄り添いながら学びを深めようとするができる。
4. 単元設定の理由・単元の意義等	<p>【単元設定の理由】 ザンビアの現状や協力隊員の話聞き、国際協力の在り方について考えさせる。また、様々なアクティビティや考えの共有を通して、「Unconscious Bias(無意識の思い込み)」に気づき他者を思いやる態度を育むため。</p> <p>【単元の意義】 他者の思いを想像し寄り添いながら、自らの考えを述べることでアンコンシャス・バイアスに気づく体験をさせる。この単元を通して、国際協力や途上国について学ぶことはもちろん、他者を思いやる態度を身につけさせたい。</p> <p>【生徒観】 対象は観光科の生徒である。アンケートでは89%の生徒が英語を好きと答えている。そのうち69%が高校入学後に英語が好きになったと回答していることから、英語学習に対するモチベーションが非常に高いことがわかる。また、昨年度教科担当教員が途上国についての授業をした際にも、自分たちにできることは何かを探し、切手回収を実践するなど、積極的に国際課題解決に向けて自ら行動しようとする姿みられる。しかしクラスの様子を見ていると、相手の立場に立って行動することが苦手だったり、自分の主観で物事を決めつけてしまったりするような場面がみられることもある。この開発教育を通して、途上国について学ぶことはもちろん、他者の気持ちに寄り添う大切さも伝えていきたい。</p> <p>【指導観】 ジグソー学習や多面的立場からのロールプレイを通じて、協同的な深い学びにつなげたい。また各アクティビティの最後には自分の気持ちや考えを整理し、クラスメイトと共有することで、身近にある多様性についても触れさせたい。</p>

5. 単元計画(全9時間)			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	『アフリカについて知る』	アフリカ、ザンビアについての概要を調べ、現地で調査をしてきてほしいことなどを考える。	ワークシート①
2	『貧富の差を知り、自分の幸せについて考える』	DEAR の100人村を題材に、世界の貧困の差について考える。その後、ダイヤモンドランキングを使い、今自分が思う幸せとは何かを考え、クラスメイトと考えを共有する。	ワークシート②
3	『About Zambia I』	ザンビアの主食 Nshima(シマ)を作って食べ、ザンビアの食文化に触れる。	Nshima 作り チュートリアル動画 (By.Lillian)
4	『About Zambia II』	①詳細情報がない状態でザンビアでの写真を見て、自分の心が動いた写真を見つけ、その理由をシェアする。 ②実際に教員が現地で収集してきた情報等を聞く。	ワークシート③
5	『About Zambia III』	①現在、ザンビアで活動している協力隊員のエピソードを英語で読みこむ。 ②ザンビアで活動中の協力隊員についての文献から読み取れた情報をシェアし、国際協力とは何か自分なりの考えを持ち、その考えをクラスメイトとシェアをする。	ワークシート③
6	『アンコンシャス・バイアスと向き合う I ~国際協力とは~』	2025JICA 教師海外研修参加メンバーが作成した教材「ちがいのちがいを」を使用し、身近にある差別や偏見に気づき、他者とのちがいに目を向ける。	ワークシート④
7	『アンコンシャス・バイアスと向き合う II ~国際協力とは~』	自分の役割を確認後、役割ごとに集まり村の集会でする演説の原稿を考える。	ワークシート⑤
8 本 時	『アンコンシャス・バイアスと向き合う III ~国際協力とは~』	①6人1グループになり、話し合いのルールを決める。 ②A を中心に話し合いを進め、各グループで解決すべき社会課題の優先順位を決定する。	ワークシート⑤
9	『アンコンシャス・バイアスと向き合う IV ~私たちはどう生きるか~』	①各グループでの結論や、その経緯についてクラスでシェアする。 ②改めて国際協力の在り方についてと自分の思う幸せについて考え、以前自分が考えたものと比較する。	ワークシート⑤ ワークシート⑥ (振り返りのため ワークシート②③)

6. 本時の展開(8時間目)			
本時のねらい:自らの考えをしっかりと述べた上で、多角的な視点で課題を捉えて議論し国際協力について考えを深める。			
時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (3min)	1. 前時までの振り返りをしたあとで、本時のタスクを確認する。【一斉】	すぐにグループアクティビティに取り組める体制を作っておく。	ワークシート⑤
展開 (45min)	2. 村の集会を開催するにあたって話し合いのルールを作る。【グループ】 3. ルールに基づき議論をし、村の解決すべき課題の優先順位を決定する。【グループ】 (必要があればペアランキングも使用しながら優先順位決定を進め、結論に至った過程もワークシートに記入していく。)	机間指導をしながら、話し合いがうまく進んでいないグループには適宜、助言を行う。 タイムマネジメントは教員が行う。	
まとめ (2min)	4. 今日の気持ちを整理する。【個人】 5. 次回はその気持ちのメモをもとに、自分の考えをもっと深く掘り下げていくことを伝える。		
7. 本時の振り返り			
<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー法を用いたため、全生徒が自信を持ってロールプレイに臨むことができた。また、事前準備の際にロールプレイの討議内で相手はどう反論してくるかまで考えさせていたため、活発な議論をすることができた。 ・一人一役と明確に役割を決めていたため、生徒一人ひとりが責任を持ってその役をやりきろうとする姿勢が見て取れた。 ・十分な討議時間を与えたつもりだったが、思った以上に議論が白熱し、時間内で課題解決の優先順位を決めることができなかった班が多数あった。生徒の感想でも、「もう少し話し合いたかった。」「もっと時間があれば自分の意見を言うことができたし、深め合えた。」などの意見もあったため、討議だけで1時間すべて使っても良かった。 			
8. 学習方法及び外部との連携			
<ul style="list-style-type: none"> ・大きなテーマを「国際協力」としていたため、海外研修で出会った隊員さんと帰国後も連携を取り続け、彼女らの活動の様子や思いなどをリアルに聞き伝えた。教員が話をする以上に、ザンビアに深く関わる人々からリアルな状況が聞けたことで、生徒たちの興味関心を高めることができた。 ・気持ちの整理、共有の時間をアクティビティが終わる毎に設けた。これは私自身が実際にザンビアで研修した際、整理しきれなかった自分の気持ちをメンバーと話したことによって消化できたという経験から取り入れたものだった。生徒たちも1人でアクティビティに取り組んでいると、何が正解か分からなくなりモヤモヤした思いが募る生徒が多かったため、気持ちの整理と共有を経て頭の中を1回ずつクリアにしていくことは効果的であったと考える。 ・ジグソー法を用いてロールプレイを実施した。はじめに役割ごとに集まって原稿作りをすることで、誰一人取り残すことなく、村の討議に安心して参加できる環境を整えた。 ・今回の公開授業にあたっては、できるだけ多くのメンバーに参加してもらった。そしてそのメンバーが各グループのロールプレイに入り、考えに揺さぶりをかけることでより白熱した議論を生むことができた。 			

● ロールプレイを通して考えたこと

自分の考える意見だけだと、他のことを客観的に見ることができない
1
いけど、合義として話し合うことで、他の人の意見が聞けて、なるとかする
2
こともあれば、互いに対抗したりして、よりよい意見が見つかるのでと
3
もまわりのこと。また、合義して選んだことが、本当にそれでいい
4
のかわからないと、似た気持ちにもなりました。合義で話し合うう
5
え以外の意見がゆずらないといけないうので、そのゆずって来た意
6
見もぶくめた。よりよい結論を出せたのかなとも思いました。この
7
ロールプレイをいかにして、今後合義するときには体験したことを発揮したいと
8
思いました

● ロールプレイを通して考えたこと

意見がものごとくぶつかる国の言葉と文化の異なる問題を解決するのた
1
たところの時間や場で、実際に大きな場所や話し合うとかなると
2
その中からどうと決めました。人の命を守るべきか、生きるのに必要な物
3
を優先するべきか、人々を、考えは違っても、向かい合えて、より
4
話し合えてきたことと決めました。それと日本に比べて、は違う
5
し、私の考えは命よりも大切なものはないという考えは、病院
6
はゴミの学校や他のグループが、ある程度納得する理由があった
7
し、人の意見は違っても、そのロールプレイは、なると決めました。
8

● ロールプレイを通して考えたこと

普段行っている国語や数学より難しい授業の内容だと思
1
ました。こうして日本だけでなく、他の国のことも考えてい
2
るとも大切だと思っ、感動しました。他の人の意見がた
3
意見を聞くことで、自分の意見だけでなく、周りの人の意見
4
も尊重しなければいけない場面はたくさんあるので、
5
学びだと思いました。どの考えも正しいかと言われた
6
正直分からないうけど、分からないからこそ考えの違
7
意見を深く合えたのかと思っました。楽しかったです。
8

● ロールプレイを通して考えたこと

最終的に順位を決めたけれど、この問題は人々、人々の問題は、順位
1
を決めたけれど、順位を決めたけれど、この問題は、人々の問題は、
2
だと思っ、教育について話して、お互いの意見が教育について話
3
のことは最終的に、この問題は、教育問題か、この問題は、
4
この問題は、つまり子供から大人まで、関わることと、未来の教育、
5
この問題は、結果、または現状をどうにかしようと、この問題は、
6
順位は順位より大事で、だから、この問題は、人々で、この問題は、
7
順位は順位より大事で、だから、この問題は、人々で、この問題は、
8

最終まとめの感想

改めて...これまで様々なワークを通してザンビアについて学んできました。

その過程を踏まえて、いまあなたが考える"よりよい国際協力の在り方"とは...
私が考える国際協力の在り方には、前と同じように、他の国のこと
1
より深く理解することだと思っます。その国で、今なにが問題と
2
なっているのか、何が必要なのか、どうしたら未来が明るくなる
3
のかを考え、その国のために自分たちになにかをできるのか、話を聞
4
ただけたと、お金を募金するや、ボランティアをするとか簡単にい
5
と、それをしたから何になるというものは先生の言葉にはおしま
6
今回の話し合いでは、健康が、橋という意見が多かったけど、
7
のために何ができるか考えるのかと、とても難しくしている。
8

■改めて…これまで様々なワークを通してザンビアについて学んできました。

その過程を踏まえて、いまあなたが考える”よりよい国際協力の在り方”とは…。

ただ足りない所をおこなうだけではなくどおやっけてあげたり
やどおやっけて衛生環境がよくなるのかのアイデアを考へてくれた
のが国際協力の在り方と表しました。これを考えた理由は、足りない
物をおこなった町はよくなると思うけれど、おこなったのはその
環境を一つつけられたのから、なうたさっかつけられたなうたさ
です。現状をどうもつつかないならあまり意味がないと思っ
た。そして国際協力の在り方は、支援も大切だけれどもザンビア
も自己責任でやると思っただけで、たかめあうという在り方
です。助け合うや支援だけをすると、なうたさっかつけられたな
うたさっかつけられたなうたさっかつけられたなうたさっかつけられたな

■改めて…これまで様々なワークを通してザンビアについて学んできました。

その過程を踏まえて、いまあなたが考える”よりよい国際協力の在り方”とは…。

私が考えるよりよい国際協力の在り方は、実際に人口との交流を増やすこと
だと思っただけです。国から物資を貰うことはとてもザンビアにとっても助かること
だと思っただけです。物資を贈るということは、最後まで責任をもちおこなう
必要があります。贈りつけていた国が急に物資が贈りつけられなくなった場合、支援物資
で暮らしていた人々にとっては、なうたさっかつけられたなうたさっかつけられたな
この状況は無責任だと思っただけです。物資を贈る前に、ザンビアの現状を実際に体験してみ
て、ザンビア自身が他の物資を頼る前に、自給自足を手助けしてあげることが大切
だと思っただけです。そのためには、みおほ先生がザンビアで勉強を教えているやり方や一緒に暮らして
相手のことを知ろうとすることが良いと思っただけです。人口との交流それは信頼関係を築いて
いけることだと思っただけです。信頼は、お金では手にいれることはできないものでもあり
人口との交流を増やしていきたく思っただけです。

■改めて…これまで様々なワークを通してザンビアについて学んできました。

その過程を踏まえて、いまあなたが考える”よりよい国際協力の在り方”とは…。

自分は今考えるよりよい国際協力の在り方は、前と同じで“豊
かな国が発展途上国に物資や金も与え、長期的な解
決策は自分たちからなうたさっかつけられたなうたさっかつけられたな
か村、町などで問題点や何が良くしていか解決策
などの意見や考えを話し合っただけです。助けられる側と
に必要なことなんじゃないかなと思っただけです。助けられる側と
助けられる側で分けられるのではなく、発展途上国で暮ら
している人たちと同じ目線で共に生きる仲間として助け
合える関係が国際協力の在り方と考えようとして、一番大事なこと
だと思っただけです。

■改めて…これまで様々なワークを通してザンビアについて学んできました。

その過程を踏まえて、いまあなたが考える”よりよい国際協力の在り方”とは…。

自分は今考えるよりよい国際協力の在り方は、前と同じで“豊
かな国が発展途上国に物資や金も与え、長期的な解
決策は自分たちからなうたさっかつけられたなうたさっかつけられたな
か村、町などで問題点や何が良くしていか解決策
などの意見や考えを話し合っただけです。助けられる側と
に必要なことなんじゃないかなと思っただけです。助けられる側と
助けられる側で分けられるのではなく、発展途上国で暮ら
している人たちと同じ目線で共に生きる仲間として助け
合える関係が国際協力の在り方と考えようとして、一番大事なこと
だと思っただけです。

14. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・単年度完結で実施するのではなく、できるだけ継続した実践ができることが望ましいと考えた。というのも、今回開発教育を実践してみて思った以上に生徒たち自身が考え抜く力を持っていることが分かった。もっと深い学びに繋げていくことを考えると、スモールステップで長い時間をかけて実践することが望ましいのではないかと考えている。 ・「答えがない」ということに対し、はじめは不安を感じる生徒が多くいたが、クラスメイトともたくさん話し合いをしていく中で1つの正解を見つけることだけが全てではなく、モヤモヤを共有していくことも1つなのだと気づいてくれた。そのときからより学びが深まり、正解がない問いに対して考え抜く力も身についてきたように感じた。 ・開発教育を通して途上国や国際理解についての理解を深めるだけでなく、考え方の違いに気づきお互いを認め合うことができるようになれば、クラス経営の1つとしてもかなり有意義な時間であると感じた。
15. 使用教材	別紙

参考資料:

山崎寛己(2025)「中学生が多文化共生について本気で考えてみた」 東洋館出版社

大河原誠也(2025)「国際協力ってなんだ？つながりを創る JICA 職員の仕事」 筑摩書房

橘秀治(2024)「JICA 海外協力隊から社会起業家へ 共感で社会を変える GLOCAL INNOVATORs」 文芸社



役割カード

A：シマダさん（JPN）

- ・JICA 協力隊(看護師)としてジコモ村に派遣。
- ・ジコモ村には様々な課題があるため、村の会議に参加し、どんな支援ができるかを考えたいと思っている。

★村に病院を建設することが最優先事項と考えている。



B：バハティ（ZMB）

- ・エマニュエルのお母さん。
- ・村の共有の井戸が壊れているため、個人で井戸を持っている家に毎月20K(120円)払って水を貰っている。
- ・息子が学校へ行きたいと知っているが、このまま働いてほしいと思っている。

★村に共有の井戸を作ることが最優先事項と考えている。



C：パトリック（ZMB）

- ・ごみ山の近くに住む40歳の男性。
- ・処分場から溢れる汚水や煙を気にしている。
- ・経済的に引っ越すことができないため、ゴミ山の移設を望んでいる。
- ・衛生的なトイレを作る技術がなく、雨期になるとコレラやマラリアにかかってしまうが、病院が近くになく受診できない。

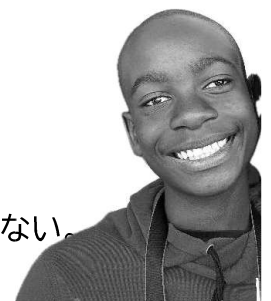
★ゴミ処分場の新設(移設)が最優先事項と考えている。



D：エマニュエル（ZMB）

- ・ジコモ村の8歳になる男の子。
- ・家族を養うために毎日20キロ離れた町に炭を売りに行っている。
- ・学校は15キロ離れたところにあるが、炭を売る仕事があるため学校は行っていない。
- ・電子機器に興味があるので本当は学校で学びたいと思っている。

★家の近くに学校を建てるのが最優先事項と考えている。



E: ロンティア (ZMB)

- ・家族を養うために毎日ごみ山に行く Waste Picker の20歳の女性。
- ・決して裕福ではないが最低限度の暮らしはできているので、特に何か現状を変える必要はないと思っている。
- ・雨期にコレラやマラリアで苦しむことがよくある。

★村に病院を建設することが最優先事項と考えている。



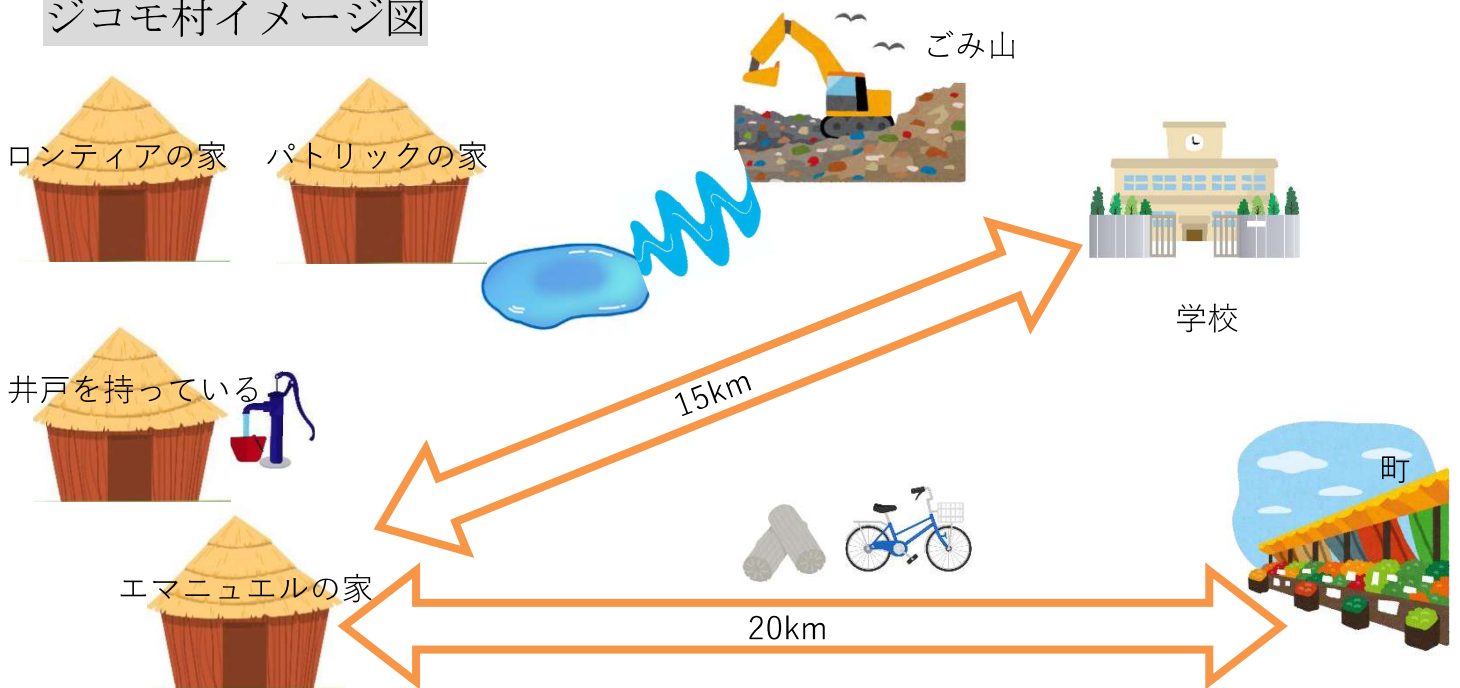
F: マパロ (ZMB)

- ・ゴミ処分場の管理人。
- ・Waste Picker の怪我などを減らすために講習会を開催しているが、うまくいかない。
- ・新しい処分場を今のゴミ山の隣に建設予定で、その処分場で Waste Picker を雇用することを考えている。

★村にゴミ処分場を新設し、Waste Picker の雇用を促進することが最優先事項と考えている。



ジコモ村イメージ図



ペアランキング

	教育系	インフラ系	医療系	ゴミ関係	TOTAL
教育系					教育【 】
インフラ系					インフラ【 】
医療系					医療【 】
ゴミ関係					ゴミ【 】



Ndikonda Zambia

Handout⑤

2-()No.() Name()

STEP1 村の会議の準備をしよう！

シチュエーション

ジコモ村の人々と JICA 協力隊員が集まって会議が開かれる。そこでそれぞれが抱えている問題などを共有し、ジコモ村をみんなにとって住みやすい村にするための話し合いをする。今回の会議での最終目標は『村の人々全員が納得した上で、村の解決すべき課題の優先順位を決めること』である。

社会課題一覧

- ・ 学校建設と教育システムの構築
- ・ インフラ（井戸や水道、トイレなど）の整備
- ・ 病院建設と医療システムの構築
- ・ ゴミ処理場の新設と雇用促進



会議で話す原稿を作ろう

MEMO

原稿

こんにちは。私は _____ です。

1

2

3

4

5

6

7

A : 6 行以上 B : 3 ~ 5 行 C : 1, 2 行 D : 一言

